

「子ども達の遊びと環境」

上田女子短期大学幼児教育科 古畑戸寿母（他六名）

1. 環境構成について

現代の子どもの遊びは、外から内へ、大きいものから小さいものへ、大勢から独りへと、様々な変化をとげている。このような遊びの実態は、依存心が強く、社会性が未熟で、協調性のない自己中心的といった、現代の子どものイメージを創り上げている。そこで、上田女子短期大学附属幼稚園の子どもの保護者、教諭それぞれに子どもの遊びの状況を調査した。

この分科会では、その結果を踏まえ、遊びの場を設定し、そこで観られる子どもの様子から、環境の与える影響の大きさを、参加者とともに考察してみたい。

2. 遊びについての調査結果

附属幼稚園の協力のもと、保育者並びに保護者へのアンケート調査を実施した。調査対象者は131名である。調査の結果を集計してみると、

①子ども達の遊びで気になること、感じることにについて。

自己中心的29人。人間関係を築くのが下手24人。意欲、体力がない21人。大人にたよる18人。遊び込めない18人。持続、発展しない12人。10名以下の少数意見については省略する。

②子どもにどのような遊びをさせたいか、というアンケートに対して、複数回答を含めると149名である。

外での遊び97人。体を使っての遊び56人。集団、友達との遊び40人。自由に、子ども主体で、自主性のある遊び36人。自然の中で遊ぶ32人。制作活動31人。創造遊び28

人。伝承遊び12人。10名以下の少数意見については省略する。

3. 遊びの観察

当日、研究会場でレクリエーション研究会の学生による子ども達との遊びがあり、参加者全員に「観察シート」が渡される。この中で①積極的な関わり方（動機づけ）②共に遊ぶ関わり方（主体性のひき出し方）③見守る関わり方（遊びへの執着）を観察した。

一口に遊びといってもいろいろあり、遊具にもボール、ナワ、フリスビーなど多くの種類があった。子ども達がどんな遊びに興味、関心を持ったかの発表があり、それについての話し合いがされた。

4. まとめ

遊びの中から、人間関係、社会のルールなど、学ぶことが沢山ある。遊びをとおして、自ら考え、作り出す力がつくように考える。成長するにつれ、人間関係が複雑になってくる。異年齢の子どもとの交流により、学ぶ点があると思う。集団活動の中で自分のあり方を身につけてゆくことが大切である。

（文責・山本秀磨）